

前線による今後の大雨の見通し

前線や湿った空気の影響で、13日にかけて大雨となる見込み。これまでの大雨により少しの雨でも災害が発生する可能性があります。土砂災害に警戒し、河川の増水や低い土地の浸水に注意してください。防災気象情報を活用し、**早めの防災対応を！**

- 青森県では、前線や湿った空気の影響により、12日夜から雨が次第に強まり、13日にかけて、下北と三八上北を中心に大雨となる所がある見込み。その後も、青森県では15日にかけて雨の降りやすい状態が続くでしょう。
- 青森県では、下北と三八上北を中心に、13日は警報級の大雨となる見込みです。特に、10日までの大雨で被害の出ている風間浦村・むつ市・七戸町では、少しの雨で災害が発生する可能性があります。
- 市町村が発表する避難に関する情報に留意し、キキクル(危険度分布)等も参考に、身の安全を確保するために、早めの行動をしてください。

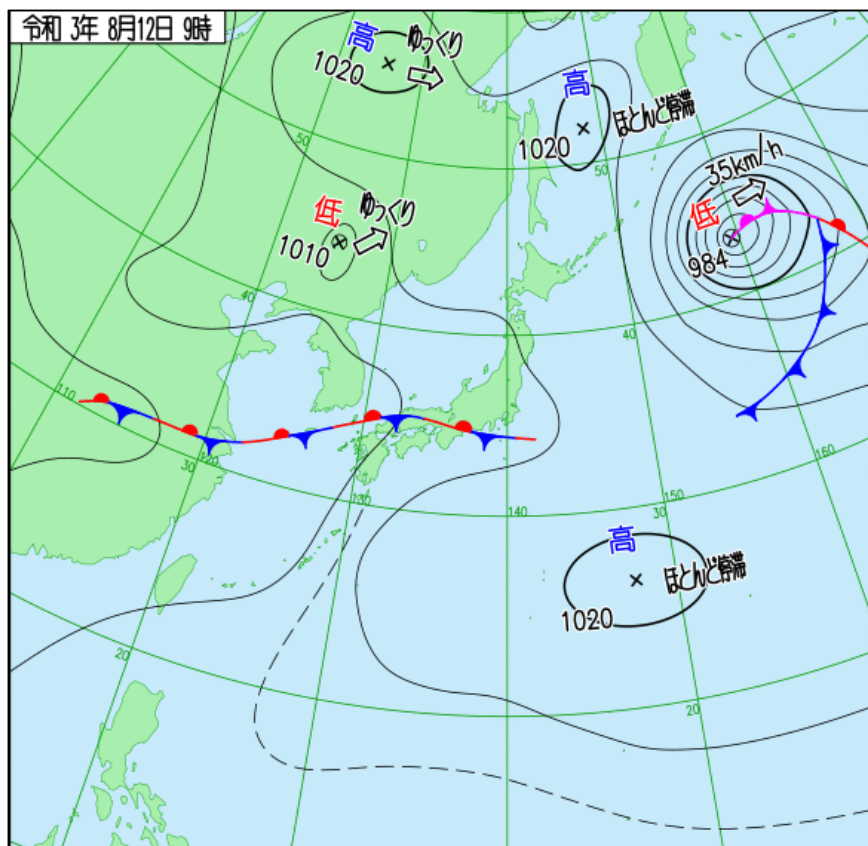
今後の予想を含めた最新の情報は気象台が発表した気象情報をご利用ください。

気象庁HP：<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

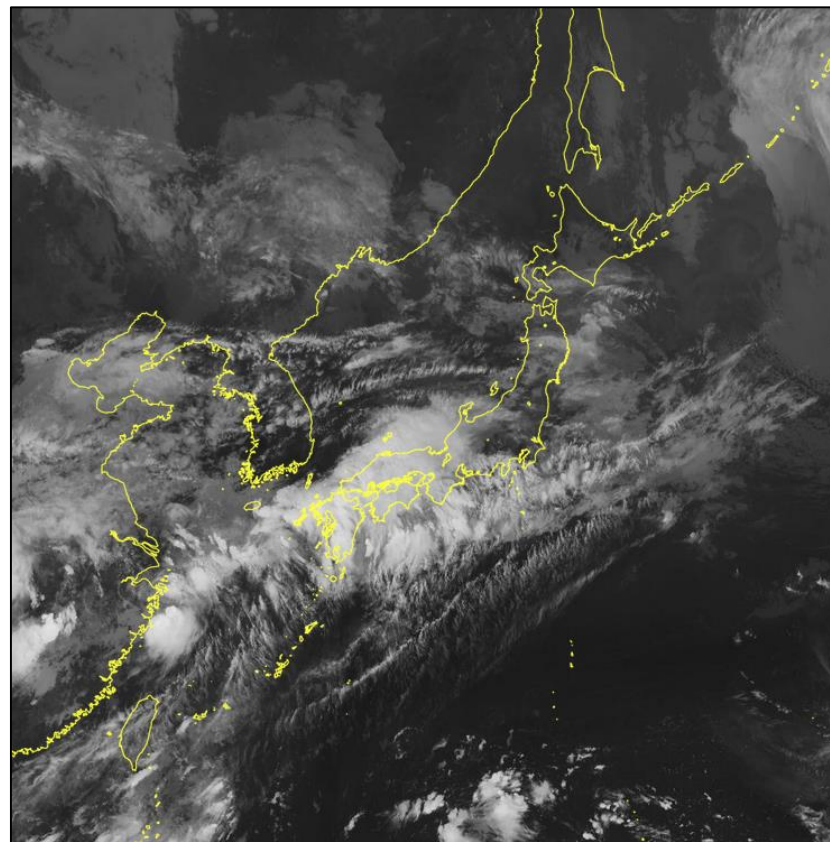
雨の様子（雨雲の動き／今後の雨）：<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>

キキクル（土砂災害／浸水害／洪水害）：<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/>

気象実況



地上天気図(12日9時)



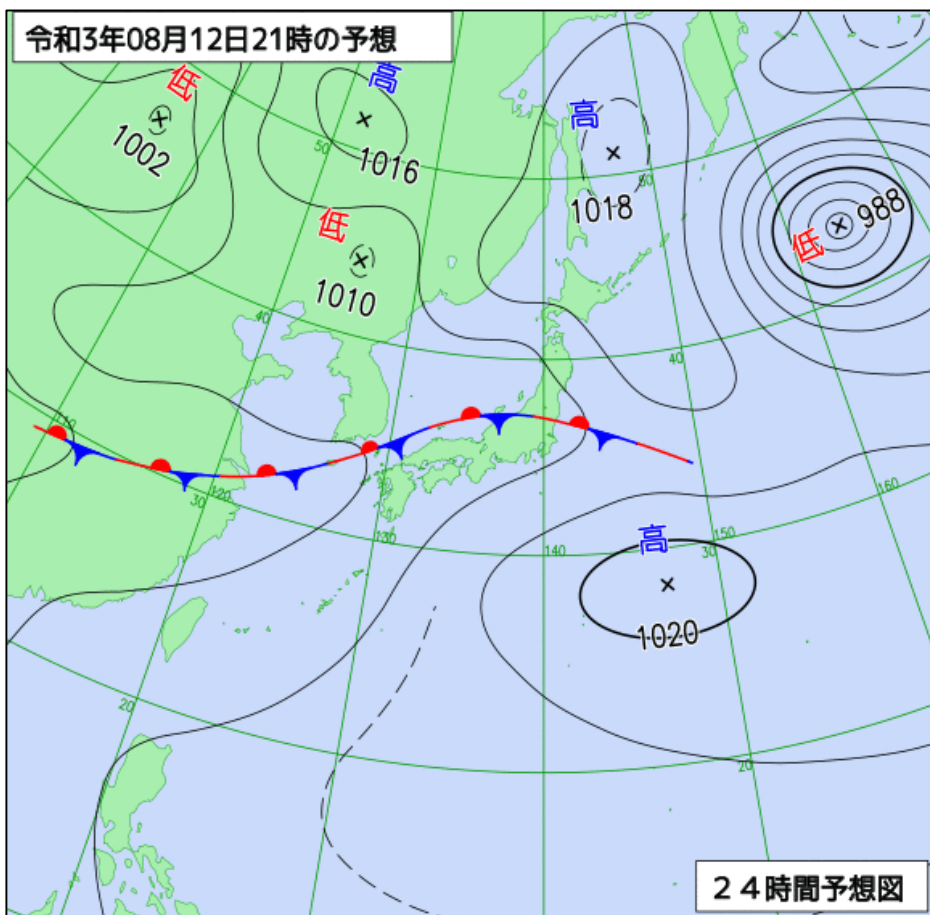
気象衛星ひまわり: 赤外画像 (12日9時)

今後の予想を含めた最新の情報は気象台が発表した気象情報をご利用ください。

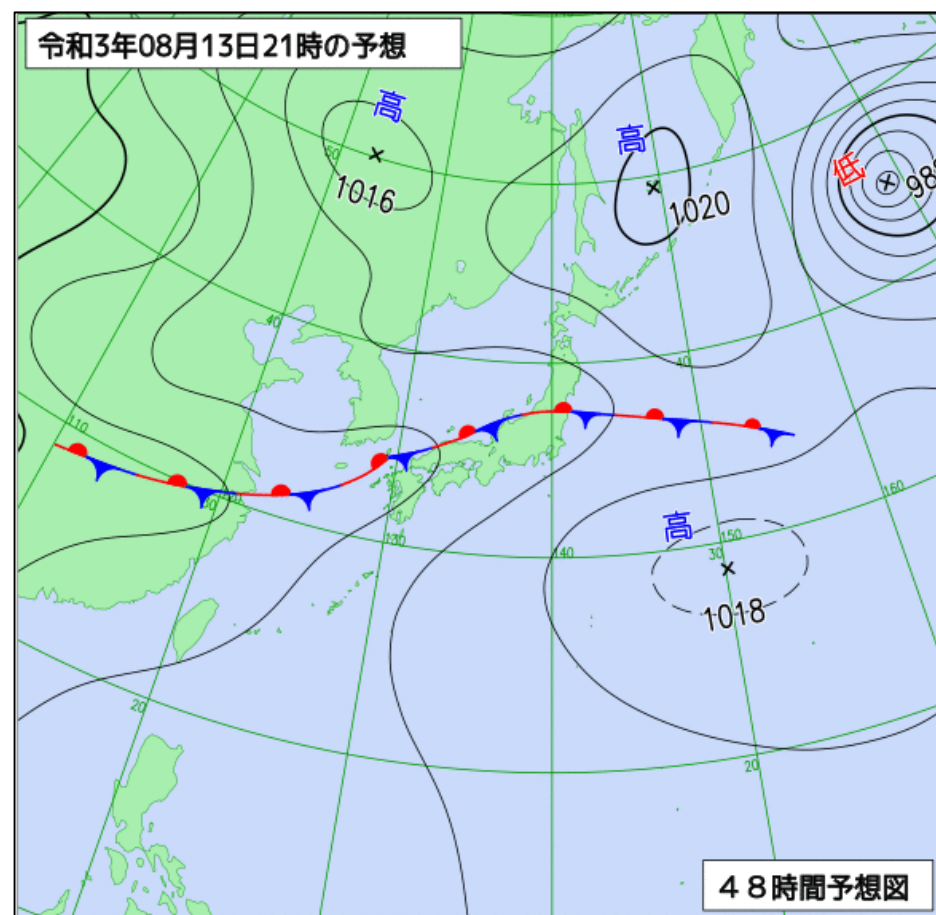
(天気図: https://www.jma.go.jp/bosai/weather_map/)

(気象衛星ひまわり: <https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#5/34.488/137.021/&elem=vis&contents=himawari>)

予想天気図（12日21時と13日21時）



12日21時の予想天気図
前線が東北地方まで北上



13日21時の予想天気図
前線が東北地方に停滞

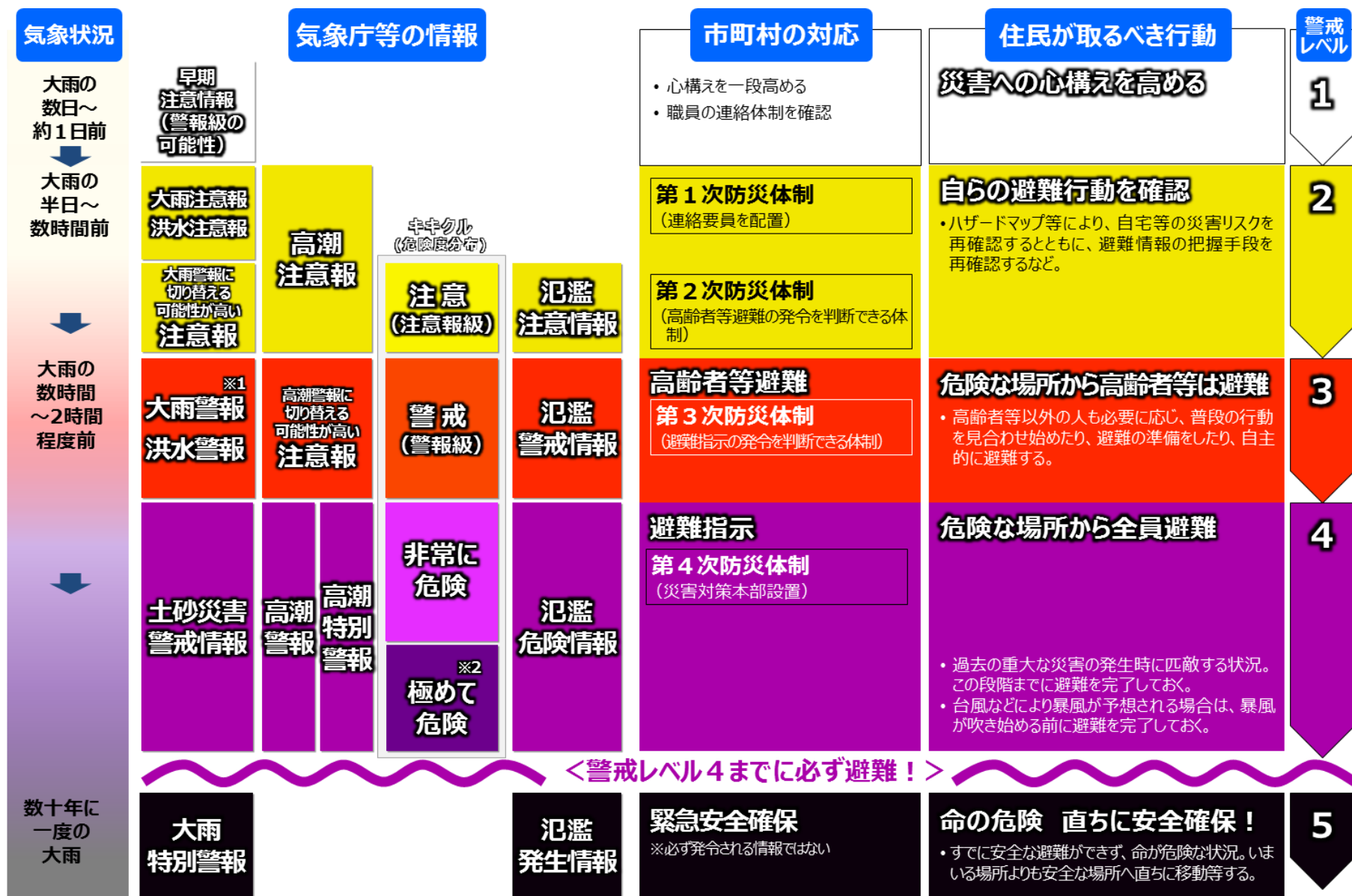
警報級・注意報級の現象が予想される期間

			12日			13日							
			15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時
			夕方	夜の はじめ頃	夜遅く	未明	明け方	朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く
青森県	大雨 1時間雨量 (ミリ)	津軽	2	5	5	15	15	15	15	20	20	15	15
		下北	2	5	10	15	15	20	20	20	20	15	15
		三八上北	2	5	10	15	15	20	20	20	20	20	20
	洪水	三八上北	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注
早期注意情報(警報級の可能性)大雨			下北・三八上北 [中]			下北・三八上北 [高]							
警報級		注意報級		早期注意情報(警報級の可能性[中])									

12日18時から13日18時	13日18時から14日18時
津軽 60ミリ	津軽 50から100ミリ
下北 80ミリ	下北 50から100ミリ
三八上北 100ミリ	三八上北 50から100ミリ

今後の予想を含めた最新の情報は気象台が発表した気象情報をご利用ください。

(気象警報・注意報：https://www.ima.go.jp/bosai/warning/#area_type=offices&area_code=020000&lang=ja)



※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

※2 「極めて危険」(濃い紫)が出現するまでに避難を完了しておくことが重要であり、「濃い紫」は大雨特別警報が発表された際の警戒レベル5緊急安全確保の発令対象区域の絞り込みに活用することが考えられます。

大雨による災害の留意事項①

大雨が降ると…

一瞬にして多くの人命や財産を奪ってしまう
土砂災害が発生！

崖崩れや土石流の発生を確認してから避難することはできない。



広島市の土石流による被害の様子
(平成26年8月20日気象庁撮影)

平成26年8月豪雨では、広島県広島市で土石流が発生し、人的被害をもたらした。

中小河川は**水位が急激に上昇！**

中小河川は、大雨が降ると短時間のうちに急激な水位上昇が起こりやすい。



福岡県朝倉市を流れる北川の様子
(出典：国土地理院ホームページ)

平成29年7月九州北部豪雨では、福岡県朝倉市の赤谷川、北川等で水位が短時間で上昇して氾濫が発生し、人的被害をもたらした。

大河川は**広範囲・長時間浸水！**

大河川で水が堤防を越えたり堤防が決壊したりすると、広範囲が長時間浸水するなど大きな被害となる。



茨城県常総市の浸水被害
(資料：国土交通省関東地方整備局)

平成27年9月関東・東北豪雨では、鬼怒川の氾濫で茨城県常総市の約3分の1の面積が浸水し、浸水が概ね解消するまでに10日を要した。

ハザードマップを参考に、
キキクルや指定河川洪水予報を活用し、

安全に避難できる早い段階で避難開始を判断することが重要！

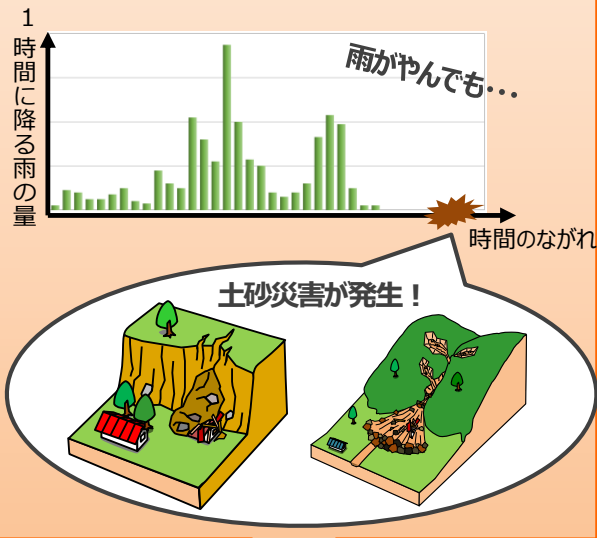


大雨による災害の留意事項②

大雨がやんでも…

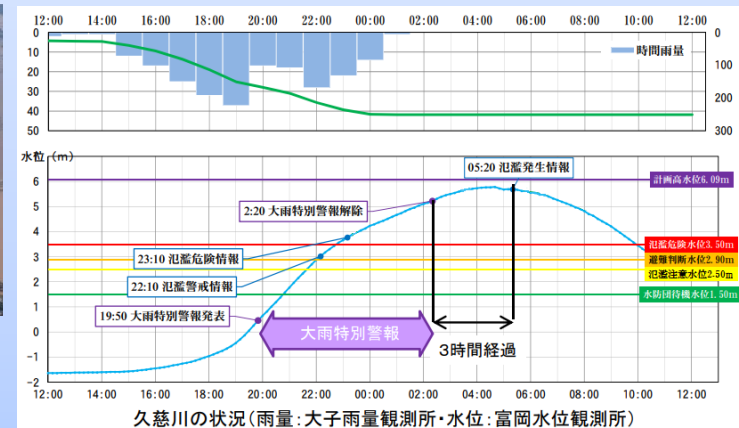
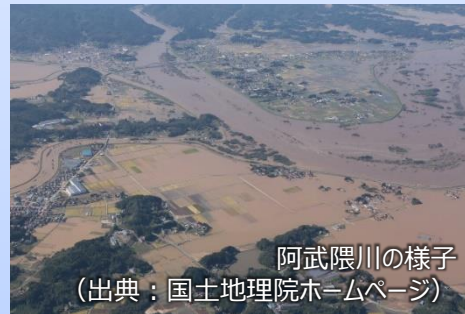
土砂災害の危険が継続！

雨が弱まったりやんだりしても、それまでに降った大雨により地盤が緩んだ状態が続き、土砂災害が発生することがある。



油断禁物！ 大河川は時間差で増水

大河川は上流の雨により下流で遅れて増水する。このため、大雨が止んだ後であっても、水位が上昇し氾濫することがある。



(出展：「第1回気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」資料に加筆)

令和元年東日本台風では、吉田川、阿武隈川、石田川、蛇尾川、都幾川、越辺川、久慈川、千曲川の7河川で大雨特別警報解除後に氾濫発生情報を発表している。

避難先から家に帰る前に

自治体の避難情報や気象情報を確認することが大切！

危険な状況ではなくなったことを確認してから家に帰りましょう。

